



バッドンタ・ウ・ケサラ・大長老
 “アビダジャマハーラッタグル”
 「正法によって国を導く偉大な師」
 ミャンマー政府より勳章授与
 ミャンマーサンガ団体の元副長
 ラインサーヤ マハーアウンミエ僧院僧院長



日本上座仏教修道会



祝 浄心庵戒壇 新設記念



バッドンタ・ウ・ニャーヌッタラ大長老
 “アッガマハーサダンマジョーテイカダジャ”
 「正法の光を世界に輝かせる最上の偉大な智慧者」
 ミャンマー政府より勳章授与
 ラインサーヤ マハーアウンミエ僧院副僧院長
 日本上座仏教修道会大長老

Sāsana Sirī Dhara Sīmā

お釈迦さまの教えが伝わるために品位を保つ浄心庵戒壇

浄心庵「シーマー（戒壇）・仏塔建立」 大プロジェクト

日本上座仏教修道会は、昨年、仏暦 2561 年(西暦 2017 年、平成 29 年)11 月 3 日(金)満月のウポサタの日、浄心庵精舎において、テーラワーダ仏教の最も重要で崇高なる「シーマー（戒壇）認定儀式」を厳粛に執り行いました。三宝の大恩師であるバッドンタ ケサラ大長老とバッドンタ ニャーヌッタラ大長老を導師として、総勢 20 名の比丘サンガの戒・定・慧の威力によって成し遂げられ、シーマー（戒壇）は結界領域 10.5×20m に認定されました。輪廻の中でも稀に見る歴史的な儀式となりました。

今年 2018 年は、三宝についての特別な尊い功德を味わいながら、お二人のご指導の下、特別プロジェクトチームメンバーは、シーマー（戒壇）として認定された特別な土地の上に、「シーマー（戒壇）・仏塔建立」大プロジェクトを実現させるべく準備を重ねております。

シーマー（戒壇）

「シーマー」とは、パーリの言葉で、日本語では、「戒壇（授具足戒の場）」と訳されています。比丘サンガが戒律の確認を行う聖なる特別な場所のことです。このシーマー（戒壇）が在れば、お釈迦さまの教えを伝える比丘サンガのための比丘出家儀式、新月・満月のウポサタの日に戒清浄になるための戒律の儀式、「カティナ・シーワラ」という特別な衣の儀式など、戒律に関する儀式を行うことができます。これらの儀式のために、このシーマー（戒壇）は必要とされます。

このように「シーマー（戒壇）」とは、比丘サンガが存在するために最も重要な場所であり、特別な聖地なのです。比丘サンガが存在すれば、お釈迦さまの教えを伝えることができます。

三宝、比丘サンガが存在するための「シーマー（戒壇）」についての功德は、輪廻解脱、涅槃に至るまで善い結果をもたらします。

仏塔建立 について

「仏塔」とは、お釈迦さまの仏舍利やお釈迦さまに関係がある物を奉安するとともに大切な「塔」です。浄心庵シーマー（戒壇）の土地の上に、平面 10.5×19.0m の 2 階建と屋上を建設いたします。1 階は、比丘サンガの居室、瞑想者宿泊施設、多目的ホールとして、2 階は、瞑想堂として浄心庵仏像が奉安され、その後部スペースには、三宝をはじめ上座仏教に関する博物館が設けられます。屋上は、中心部にミャンマー式シェーダゴンパゴダ形仏塔を大切に安置します。北側中央部は、日本式仏塔として三重塔を安置する予定です。この 2 つの仏塔は、ミャンマーと日本両国の仏教友好交流を深め合い、両国の幸福と世界平和への礎として、日本の地に純粋なお釈迦さまの教えが広く永く存在するための願いに由るものです。

このような比丘サンガの戒・定・慧のエネルギーによって、特別な土地となったシーマー（戒壇）の上に仏塔を建てる機会を得ることは、日本では極めて稀なことであり、大変幸福なことでもあります。この建物は、お釈迦さま、お釈迦さまの説かれた教え、そしてお釈迦さまの弟子である比丘サンガに関係がある特別な「シーマー（戒壇）・仏塔」なので、特別な功德、波羅蜜を積むことができます。今世、今現在も、来世、未来までも、必ず善い結果をもたらします。そして純粋なお釈迦さまの教えが永く存在することができます。

この建物の中で、お釈迦さまの教えを修道する見習出家、比丘出家、正学女、尼僧、男性瞑想者、女性瞑想者たちは、輪廻解脱、涅槃へ至る八正道（戒・定・慧）を実践することができます。ですから、この特別な「シーマー（戒壇）・仏塔建立」は、大変得難く特別な功德、波羅蜜なのです。

「シーマー（戒壇）・仏塔建立」のための特別な功德としてお布施を希望される方は、浄心庵「シーマー（戒壇）・仏塔建立」お布施のご案内をご参照ください。

仏暦 2562 年 西暦 2018 年 平成 30 年 7 月 27 日 満月のウポサタの日
日本上座仏教修道会 代表 吉田 郁子



3. စုပေါင်း ကထိန်သင်္ကန်း
ဆက်ကပ်လှူဒါန်းပွဲ

4. သိမ်အတွင်း သံဃာ့ ဥပုသ်ကံ ပြုပွဲ
3 November 2017



日本上座仏教修道会



3. 「カティナ シーワラ ダーナ」の儀式
4. 「サンガ ウポサタ」の儀式

仏暦 2561 年 平成 29 年
11 月 3 日 (金) 満月のウポサタの日

ケサラ大長老をはじめ 10 名のミャンマー比丘サンガご来庵 ～比丘サンガ 40 日間のご活動 (14 の儀式)～ 第 3 回

◎ 「カティナ シーワラ ダーナ」の儀式 ～お釈迦さまが褒められた衣を供養する儀式～



2017 年 11 月 3 日 (金) 満月のウポサタの日、日本上座仏教修道会創立以来はじめて、比丘サンガによって「カティナ シーワラ ダーナ」儀式が実現いたしました。

その日の朝、浄心庵瞑想堂において、バッドンタウ ニャースッタラ大長老へ上座仏教修道会会員有志によって「サンガッサ デーマ・・・」と比丘サンガを目指して「カティナ」衣が供養されました。



黄昏時には、新しい浄心庵シーマー (戒壇) において、供養された「カティナ」衣を再び、代表吉田から会員有志たちの手から手へ大切に手渡され、バッドンタウ ケサラ大長老と、バッドンタウ ニャースッタラ大長老をはじめ 20 名の比丘サンガの前に、尊敬して捧げ置かれました。

浄心庵精舎で、3 ヶ月の安居を無事に終わられた比丘が、さらに安楽に使うことができるように、比丘サンガが認める「カティナ シーワラ」儀式が執り行われました。



3. 「カティナ シーワラ ダーナ」 儀式について

～お釈迦さまが褒められた衣を供養する儀式～

ニャーヌッタラ大長老ご説法

「カティナ シーワラ ダーナ」とは、パーリの言葉です。「カティナ」とは、「褒(ほ)められた」、「シーワラ」とは、「衣」、「ダーナ」とは、「お布施」という意味です。

比丘サンガの3ヵ月間の安居が無事に終わられた後の1ヶ月間という決められた期間に、比丘サンガへ特別な衣を供養・お布施することです。昔からお釈迦さまをはじめとする聖者たちは、この衣の布施を称賛されました。

「カティナ」のもう一つの意味には、「善い結果をしっかりと得る」という意味があります。この特別な「カティナ」衣の布施を受けた比丘も、布施者も特別な善い結果が必ず得られます。このことも「カティナ」ということの意味です。

「カティナ シーワラ ダーナ」は、条件がそろうときに行うことができます。

「お寺にシーマー（戒壇）が存在する、比丘サンガが5人以上存在する、3ヶ月間の安居を無事に終わられた比丘が存在する、カティナ衣を供養する布施者が存在する、1ヶ月間の決められた期間にカティナ衣を供養する」などの条件がそろうとき、行うことができます。

「カティナ シーワラ ダーナ」儀式とは、お釈迦さまの教えがとても栄えるところでだけ行うことができる特別な布施であり、5人以上の比丘サンガが存在している場所でだけ行うことができます。比丘サンガの徳と恩が本当にわかる人ができます。

安居中は、比丘も在家信者も熱心に瞑想修行に正精進で励みます。ですから、安居が終わったあとは、カティナ シーワラ ダーナを布施する人も、受け取る比丘サンガも、とても心淨らかになります。このようなことから、カティナ シーワラ ダーナの功德は特別大きなものであるといわれ、無量の功德を積めるともいわれています。

カティナ シーワラ ダーナを行った人は5つの特別な結果を得られるとされています。

「カティナ シーワラ ダーナ」の 5つの結果

1. 外出した時、危険に遭わない。
2. 自分の財産が火事や盗みなどによって失われない。
3. 毎日、健康で心安らかに過ごすことができる。
4. 周りの人々から高い尊敬を受ける。
5. 安らかな死に方をして、来世に善いところに転生する。

これら5つが、カティナ シーワラ ダーナの功德の結果です。カティナ シーワラ ダーナは衣のダーナの中でも、最もすぐれた功德を生み出すダーナなのです。

日本でカティナ シーワラ ダーナに出会う皆さんはとても幸運です。



◎「サンガ ウポサタ」の儀式

～ 比丘サンガの戒律の儀式 ～



2017年11月3日(金)満月のウポサタの日の最後の儀式として、バッドンタ ウ ケサラ大長老と、バッドンタ ウ ニャーヌッタラ大長老をはじめ総勢 20名の比丘サンガによって、新・浄心庵シーマー(戒壇)の土地の上で初の「サンガ ウポサタ」儀式が行われ、満月の光背に包まれるように、めでたく幕を閉じました。

～ 三大儀式の初日完遂 ～



仏暦 2561年(平成 29年) 11月 3日(金)満月のウポサタの日、浄心庵精舎において、「シーマー(戒壇)認定儀式」をはじめとして「カティナ シーワラ ダーナ儀式」、「サンガ ウポサタの儀式」という一日に3つの儀式を無事に成し終え、三大儀式の初日を完遂いたしました。

ニャーヌッタラ大長老の尊いご指導の下、特別プロジェクトチームの皆さんとともに、この日のために、日々準備を重ねて参りました。当日は、浄心庵精舎食堂早朝4時に集合し、比丘サンガの朝食ご供養からはじまり、昼食のご供養、そして、3つの儀式に参加

4. 「サンガ ウポサタ」の儀式

～ 比丘サンガの戒律の儀式 ～

ニャーヌッタラ大長老ご説法

「サンガ ウポサタ」という比丘サンガの戒律についての儀式は、一ヶ月に2回、満月のウポサタの日と新月のウポサタの日に行われます。

その満月のウポサタの日と新月のウポサタの日には、テラワダ比丘サンガたちは、シーマー(戒壇)の中に集まって、ハッタパーサ(120cm)以内に坐って、お釈迦さまが決められた戒律を、比丘サンガの代表である一人の比丘が唱えて、他の比丘サンガたちはよく聴く、という儀式です。

この儀式を、お釈迦さまの時代から、今現在まで、新月のウポサタの日と満月のウポサタの日に行われてきました。

浄心庵精舎の中で、お釈迦さまが教えられたとおり、比丘サンガによって認定された「Sāsana Siri Dhara Simā(お釈迦さまの教えが伝わるために品位を保つ浄心庵戒壇)」の中で比丘サンガたちは、

仏暦 2561年(西暦 2017年、平成 29年)

- ・ 11月 3日の満月のウポサタの日に1回
- ・ 11月 18日の新月のウポサタの日に1回
- ・ 12月 3日の満月のウポサタの日に1回

以上、3回、「サンガ ウポサタ」が行われました。

以上の3回の中で、1回目の11月3日の満月のウポサタの比丘サンガの儀式では、ケーマーナダさんは見習出家でしたので入ることは出来ませんでした。2回目のときには、比丘になったので、浄心庵ケーマーナダ比丘も、比丘サンガについての戒律の儀式に参加することが出来ました。

12月5日に比丘サンガたちがミャンマーへ帰った後も、セヤードーと、ケーマーナダ比丘2人で、毎月毎月、戒律が清浄になるために、満月のウポサタの日と新月のウポサタの日には、新しい浄心庵戒壇の中に入って、お釈迦さまの教えられた戒律、慈経を唱えて、最後に回向して、「サンガ ウポサタ」という比丘サンガの戒律についての儀式を行います。

しながら、準備や後片付けなど、この日一日で、本当にたくさんの特別な功德、波羅蜜を積むことができました。

三宝とケサラ大長老、ニャーヌッタラ大長老をはじめ、20名の比丘サンガに感謝申し上げ、皆さんと積んだ、この上ない得難い功德に心から随喜申し上げます。

Sādhu Sādhu Sādhu

※「比丘サンガ 40日間のご活動(14の儀式)」についての報告は次号に引き続き掲載いたします。

(次号へ続く)